

MACF 礼拝説教要旨

2023年1月15日

「園丁はあなたを見捨てない」

ルカによる福音書 13章 6～

そして、イエスは次のたとえを話された。

「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。7そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』

8園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。9そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』

1)「悔い改めない人」との関連でこのたとえを読んでみる

「悔い改めない」「絶望的な方向に向かっている人」は、このお話では「実を結ばないイチジクの木」と考えるとわかりやすいかもしれません。

3年経ってもまったく実を結ぶことがない。

「実を結ばない」という表現には「実を結ぶことができない」というのと

「実を結ぶことを拒んでいる」というふたつの心の姿勢が存在します。

「実が結べない」というのは、「不能」です。その力がないのです。

「実を結ばない」というのは「反抗・拒否」、実を結ぶことができるのに、それを拒んでいるので実が結べないままなのです。

死んでしまっている人は「実が結べません」いのちがないからです。

でも生きている人は「実を結ぶことができます。」教えられ、導かれ素直に応答すれば、悔い改めることが可能だからです。

そのためには、聖書の言葉と聖霊による促しが必須です。

それでも、実を結べないわけではありません。

2)「ある人」「ご主人」とは誰か

一般的には、こういう物語の場合、主人は「神様」です。

でも、例えで話すにしても、この物語の中では、この主人が短気すぎるような、ちょっと乱暴すぎるような、機能論的人間観で人を評価しているだけの人のように感じて、神様の姿となじまないように思うのです。

私を感じたのはこういうことです。

この「ある人」「主人」を文字通り、「ある人」あるいは「あなた」「わたし」と考えると筋がすっきりして来るように思います。

つまり、自分の都合通り、実を实らせたい人の姿がここにあるのです。

いろいろやっているのですが、悔い改めることをせず、自分の思い通りのやり方にばかり固執しているので、まったくうまくいかず、絶望し、自分に対して嫌気がさして、もう殺してしまいたくなるような衝動に駆られる程になってしまっているのです。放っておいたら、自分で自分に対して自暴自棄になり、実らせることも、育てることもせず「切り倒したく」なり「根こそぎ抜いてしまいたく」なってしまう。まさに、絶望が行動に結びついてしまうことになるのです。

3)園丁とは

そこに園丁が登場します。この人の存在は実に重要です。

というのは、「8 園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。』とあるように、「やり直し」「育て直し」「癒し」と「ケア」を提供する存在として登場しているからです。

これは当然、イエス様のことと置き換えることができます。

そして、イエス様のケアは、この人が実を結ぶためにケアすることですから実は木自身がやらせなければなりません。

つまり、わたしが「悔い改め」「気づきと方向転換」できるためのケアをせいいっぱいしてくださる役目です。

4)時間の猶予とケアの提供

園丁は「『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。9 そうすれば、来年は実がなるかもしれません。』

もしそれでもだめなら、切り倒してください。」
と言います。

この例えで学べることはいろいろありますが

- * 悔い改めのための猶予があり、それには期限があるということ。
- * 悔い改めのために、促しはまちがいなく提供され、気づけるようになるということ。
- * 私たちはうまくいかないと、自分を切り倒したくなる傾向があるということ。

まず、今日生かされているのは

「実を結ぶために頑張ること」ではなく、

「イエス様に「栄養をいただき、ケアしていただいていることに気づき感謝すること」に
気づくこと。それを誠実に受け入れること。

それだけで、実りは始まります。

それだけで、自分を切り倒したくなるような気分からの解放がはじまります。

* *

MACF 礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/B20yztyUgaM>